



快適な生活基盤の充実を目指し、区画整理事業が進められる柳沢地区

下水道施設の整備は広範な市街地を有する山田処理区を本年度から実施します。また水洗化の増加に対応するため船越処理区では、クリエイトピュアふなこしと前須賀中継ポンプ場の増設工事を行うとともに、今後も水洗化の普及に努めます。漁業集落排水処理事業は、大沢山谷、袴田地区、船越岩ヶ沢地区と海蔵寺周辺などで使用開始する予定です。

廃棄物処理対策の推進については、宮古地区広域行政組合と連携を密にし、廃棄物の排出抑制・減量化・再資源化

の普及啓発活動を進めます。また、産業廃棄物処理施設への町の立ち入りが可能になりましたので、県と連携し監視活動を進めていきます。再資源化の推進は、リサイクル資源回収団体奨励事業を継続し、資源回収団体の育成強化、資源回収量の増大を図ります。

土地区画整理事業の推進は、「山田道路」の開通で、接続する道路整備が本格化します。街区の形成を見据えた計画的な事業推進に努めます。

環境の保全については、「山田町環境基本計画」に基づき、町、事業者、町民の責務を具体的に示し、日常的な環境保全行動の促進と啓発活動を推進します。山田湾、船越湾の海を守る運動は関係機関と連携し、排水浄化情報の提供、意識啓発活動の推進、「山に広葉樹を植える運動」植樹祭を実施します。

町土保全ですが、国土調査事業は船越第十二地割、十三地割の地籍調査を進めていきます。津波・高潮対策は、県が行う山田・大浦漁港の海岸保全事業や織笠川河口の三陸高潮対策事業を促進します。また、平成十三年度から始まった織笠地区急傾斜地崩壊対策事業や治山事業を促進し、災害に強い町づくりを進めていきます。

## 人と人が支え合う温かい心の通うまち

# 温かな心通い合う町づくりを

健やかな地域社会を築くためには必要な保健予防、医療、生活支援、介護サービスを活用し、町民一人ひとりが生涯にわたり心身共に健康で、温かな心の通う町づくりを推進しなければなりませんと考えます。

地域保健については「自分の健康は自分で守る」を基に、母子保健、精神保健、循環器検診、がん検診、在宅訪問指導など町民が主体的に健康づくりに取り組めるよう支援します。また、健康寿命の延伸を図るため健康日本21（山田版）を策定し、痴ほう予防や食生活改善対策事業などを進めます。新たに、良好な親子関係醸成のため、乳幼児健診の際に「絵本の読み聞かせ」ブックスタート事業をボランティアの皆さんの協力を得ながら実施します。県立山田病院の改築と併せ、町民の需要に応えられる診療体制の充実に向け要請活動を関係機関に行っていきます。

国民健康保険事業は保険財政基盤が厳しい状況ですが、保険税の収納率の向上を図るとともに、保健事業の安定化に努めます。地域福祉推進体制については、地域住民の積極的な参加と創意工夫により、地域ボランティア活動を推進しなければならないと考えています。その中核となる社会福祉協議会と連携を図り、みんなで支え合う福祉

ネットワークづくりを推進します。平成十四年度に策定した「山田町児童育成計画」では、延長・休日保育など特別保育事業の継続実施や学童保育などの実施を検討します。また、子育て支援センターを中心に電話や面接での相談、訪問活動の実施、育児サークルや子育てボランティアの養成に努めます。

高齢者福祉では、高齢者が必要とする支援体制の充実と社会参加を促すための自主的、積極的な活動拠点の育成を推進します。外出支援サービスや寝具洗濯乾燥消毒サービス、新たに訪問理美容サービス事業などを実施します。本年度から「第二期介護保険事業計画」に移行しますが、今後も利用者が安心して介護サービスを利用できるように各種見直しに取り組みとともに、制度の周知と情報提供に努めていきます。障害者福祉は、障害者福祉サービスが「措置制度」から「支援費制度」に移行しました福祉サービスの実施に努めます。

交通安全の確保については、高齢者・児童生徒を対象とした交通安全教室や街頭指導、安全運転百日運動などを通じ、町民への啓発活動を推進します。消防・防災対策は、災害時の緊急連絡や避難応急対策の充実を図るため、自主防災組織の育成に努めます。